



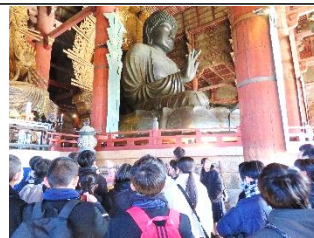
北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No33
文責 芹川博文
12月20日(金)

オーバーツーリズムの中の修学旅行

～ 「楽しい」の土台となる「日々の積み重ね」と「感謝」 ～



正直なところ、かなり心配しました。特にオーバーツーリズム状態にある京都の混雑ぶりが報道されていたからです。確かに路線バス内や清水寺などのスポットは、なかなかの込み具合でした。周りから聞こえるのは様々な国の言語。私は、日本語まで外国語に聞こえてくるといふ不思議な感覚を体験しました。そのような中、北中2年生は、朝8時から夕方4時30分までの京都散策を行い、全ての班が時間内に宿に戻ってきました。帰還後、ロビーで報告する時の、彼らの姿が、たくましく見えました。

2泊したユースホステルの方からは、「皆さん、挨拶がとてもよいですね。」「沢山お食べになられて、残さず食べられるのが、有難いです。」と、京都のイントネーションでお褒めの言葉をいただき心が温くなりました。バスガイドさんからは、「先生の指示で二列にサッと整列された。これが当たり前ではない場合もあります」とのこと。北中生の姿を通して日々の積み重ねの大切さと、北中綱領の言葉、「事大小となく正道を踏み、至誠を推し、義を以て断じ、私を後にし公を先にすべし」を思い出しました。

修学旅行は忘れられない楽しい思い出となったことでしょう。同時に、家族や友達の有難さや、健康や平和という「土台」を感じ、何気ない日常に感謝の思いを抱いた生徒もいたかもしれません。早朝の送りや日暮れてからの迎え等、保護者の皆様には大変お世話になりました。

未来の菊池市を思い描き 提案する

～ 3年生の社会(公民)の授業 8名ものゲスト・ティーチャーをお迎えして ～

3年生の教室が活気に満ちていました。3年担任の宮崎貴臣先生の社会(公民)の授業で、菊池市役所、商工会、観光協会、地元企業や商店の方々8名をお招きして、班ごとに、未来の菊池市を思い描き提案する「政策案」作成の授業が行われました。

夏に行われた「子ども議会」の学校版とも言えますが、決定的な違いは、その道の専門の方から直接アドバイスや質問を受けながら内容を深めていくところ。「本物に触れる授業」「没頭する学び」を通して生徒たちは更に菊池市民としての当事者意識を高めたことでしょう。



「冬来たりなば 春遠からじ」

～ 明日の冬至を前に、初雪と鬼柚子から思うこと ～

「外が明るいな」と思って玄関を開けると思いがけない初雪の景色が広がっていました。北中に近づくにつれて際立つ白さ。冬の到来を感じた朝でした。スクールバスから降りて来た生徒に尋ねると、「家の周りはずっと積もってましたよ」とのこと。

「冬来たりなば、春遠からじ」という言葉を思い出しました。辛い時期を乗り越えた先には、幸せが待っているという例えにも使われる言葉です。



明日は冬至。北中の職員玄関には保護者の方からいただいた大きな鬼柚子を飾らせてもらっています。この週末は柚子湯にでもつかり、ホッと一息つきたいものです。今年もあと10日です。